

2022.04.12

日本文化を英語で発信プロジェクト第5弾

# 「ランドセル文化」を英語で学ぶオンラインセミナーを開催しました。

開催日：2022年3月26日(土)

開催場所：オンライン(Zoom)開催

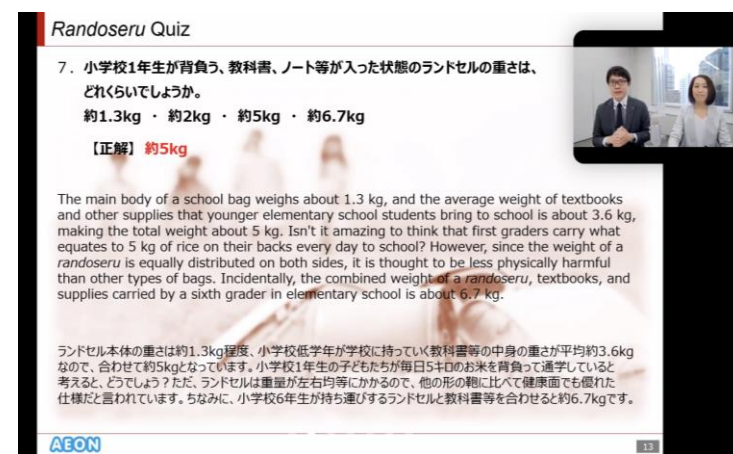
日本の文化を英語で再発見し、世界へ伝えることを目的としたプロジェクト「日本文化を英語で発信プロジェクト」の第5弾を開催しました。日本文化への関心が世界中で高まる中、本プロジェクトでは日本人でもあまり知らない日本文化に焦点を当て、英語で掘り下げていくセミナーです。第5弾は、一般社団法人日本鞆協会ランドセル工業会と協力し、130年以上に渡るランドセルの起源や歴史、ランドセルを贈る国際支援活動など、日本人でも意外と知らない「ランドセル文化」を英語で学ぶオンラインセミナーとなりました。



## 【セミナー内容】

### ①「ランドセルクイズ」

まずは、ランドセルにまつわるクイズを出題。前回に引き続き投票機能を使って参加者の皆さんに解答していただきました。質問によっては解答が割れ、参加者の皆さんにとって意外な答えだったものもあったようです。



-----《クイズ例》-----

「Q.ランドセルは何語が変化したものでしょうか？」

→「A.オランダ語」

「Q.小学校1年生が背負う、教科書、ノート等が入った状態の重さはどれくらいでしょう？」

→「A.約5kg」

### ②「ランドセル文化ミニ講座」

ミニ講座ではランドセルのはじまり、時代ごとの変移、現在のトレンドなどを、英会話イーオンインストラクターのJohnny先生が英語で紹介しました。英語表現だけでなく、日本独自の文化を海外へ伝えるためのポイントを学べる内容の講座となりました。

More About *Randoseru*

*Randoseru* school bags are usually given to children as presents by their grandparents or parents, which helps them to develop a sense of cherishing things. There is likely no other bag in the world that can stand up to daily use for six years without breaking down, and the *randoseru* is a bag that everyone, regardless of age or gender, can be proud to carry. This year, Japanese *randoseru* culture celebrates its 135th anniversary.

ランドセルは主に祖父母や両親などから贈られ、「ものを大切にすること」を育ててくれます。ものがあふれ、古くなれば新しいものを貰ってもらえる現代の日本社会において、6年間という長い期間「1つのものを使い切る」という経験は、他にはないのではないのでしょうか。6年間、毎日使っても壊れない鞆は、世界中どこを探してもありません。世代、性別関係なく、誰もが背負うランドセルは、「世界に誇れる鞆」です。そんな日本のランドセル文化は今年、135周年を迎えます。

★日本語字幕があるので、英語初級者でも安心です。

### ③「英語表現ミニレッスン」

英語表現ミニレッスンでは、日本文化を説明する際に役立つ英単語やフレーズなどを、例文とともにご紹介しました。画面の前で実際にJohnny先生の後に続いてリピート練習をする時間も設けられました。

-----《表現例》-----

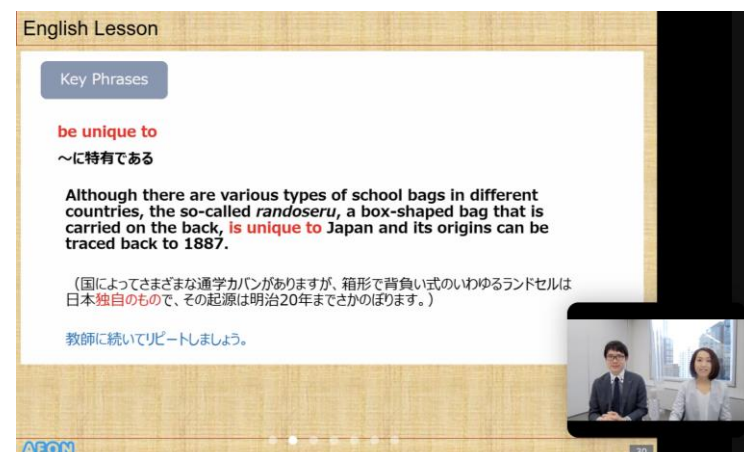
**be unique to** ～に特有である、**watch over** ～を見守る

◆Johnny先生の後に続いて、リピート練習をしました！◆

*Kansai-ben* is a dialect that **is unique to** the *Kansai* region of Japan.  
(関西弁は関西地方**特有**の方言です。)

*Jizo* statues are believed to be neighborhood guardians that **watch over** children.

(お地蔵は子どもたちを**見守る**地域の守護者とされています。)



★単語・フレーズの使い方がイメージしやすい例文もご紹介

## ⑤ 質疑応答

質疑応答では事前に参加者から集めた質問に対して、一般社団法人日本靴協会 ランドセル工業会 会長 林 州代氏にお答えいただきました。「なぜ日本の小学生はランドセルを背負って通学するようになったのでしょうか?」「日本以外ではランドセルは使っていないのでしょうか?」「海外でも人気があるのはなぜでしょうか?」など、様々な質問が寄せられました。林氏は、日本のアニメを知る海外の方からのランドセルの認知度が高いということ、また海外ではランドセルの不思議な形がスーツなどにも合い“Cool!”と言われるということをお話しされていました。他にも思わず「なるほど」とうなずくような内容をお話ししてくださいました。セミナーを担当したJohnny先生も英語で解説しながら、日本の細部にわたって作られるランドセルに感動したと話していました。



ランドセルは祖父母や両親から贈られ「ものを大切にする心」を育ててくれます。6年間という長い期間「1つのものを使い切る」という経験は、他にはないのではないのでしょうか。世代、性別関係なく、誰もが背負うランドセルは「世界に誇れる靴」です。そんな日本のランドセル文化は今年、135周年を迎えます。

## セミナーの感想を参加者にお聞きしました！

- ・ 英語フレーズはいろいろなレベルに合わせて例文と一緒に学べてすべて勉強になりました。
- ・ 女の子の人気色No. 1が紫なのは驚愕しました。質疑応答で林会長のお話をもっと長くお聞きしたかったです。全体的にとっても興味深い内容でした。
- ・ もっと頻繁に開催してください！
- ・ とても勉強になりました。

## 今回のセミナーは見逃し配信でご覧いただけます！

今回のセミナーは4月28日に、下記URLにて無料で見逃し配信を行います。セミナーに参加できなかった方、もう一度セミナーを見たいという方はぜひご覧ください！

**【<https://aeonconnect.jp/courses/156>】**

※ご視聴を希望される方は前日18時までにお申込みください。  
お申込みには、**無料登録**が必要です。

## 次回もお楽しみに！

今後もイーオンでは、様々な日本文化を英語で紹介するセミナーを開催していきます！

ご興味のある方は下記URLより、最新情報をご確認ください。

**【<https://aeonconnect.jp>】**

本件に関するお問い合わせ

インフォメーションセンター: **0800-111-1111**  
(月～金: 12時～18時)

【イーオンについて】

イーオンは1973年に創業以来、日本人に最適な語学教育を通し、世界で通用する人材育成に高い評価をいただいています。日本人の英語上達のためにオリジナル教材を開発。人格、指導力ともに優れた日本人教師と外国人教師を採用。それぞれの強みを活かした効果的なレッスンで、苦手を克服しながらコミュニケーション力を高め、ビジネス英語や資格取得に大きな成果を挙げています。2018年からはKDDIグループの一員となり、イーオンが培ってきた「日本人のための英語教育」のノウハウと、KDDIグループの持つ情報通信技術が融合するEdTechを推進し、最新かつ高品質なサービスに取り組んでいます。

イーオンでは、安心して英語を学んでいただくために、

- 新型コロナウイルス感染拡大防止を最大限整えた環境を提供します。
- 生徒様の授業料に対して、「前受金分別信託制度」導入しています。
- 外国人教師の99%は北米で採用。来日後は全員日本の社会保険に加入させています。

株式会社イーオン(本社所在地:東京都新宿区、代表者:山崎高人)は、現在、全国主要都市に約250校を有し、幼児から学生、社会人の方々が通いやすく学びやすい環境とカリキュラムを構築。グループ全体で生徒数8万人を超える実績とともに、その約50%は未来を担う子どもたちであることもイーオンの信頼の証しです。

◆イーオン公式HP: <https://www.aeonet.co.jp>